

いきいき 行田人

たんきん 鍛金で行田の芸術界をリード

長谷川 大祐さん (24歳・桜町)

今月は、第61回埼玉県美術展覧会の彫刻部門で埼玉県教育委員会賞を受賞した長谷川大祐さんを紹介します。

彫刻と聞くと、木や石などを彫り、立体的に表現することをイメージしがちですが、長谷川さんの場合は「鍛金」という技法を使って平らな金属板から作品を作りあげます。鍛金とは金属に熱を加え、金づちで叩き加工する金属工芸に用いられる技法の一つ。当て金というさまざまな形状をした鉄の塊の上に金属の板材を置き、いろいろな種類の金づちで叩きながら形成していきます。

「鍛金による作品作りは根気強さが必要で、1メートルを超える大きな作品にもなる」と一日7時間以上金づちで叩き続け、完成まで半年以上かかるそうです。それでも長谷川さんは「自分は地道にこつこつとやり続けることが好きな性格だから鍛金に合っていたんだですね」とこやかに話してくれました。



長谷川さんが鍛金と出会ったのは高校生のころ。工芸学系の授業で鍛金を行った時に「一枚の金属板からこんな立体的な作品ができるなんてすごい」と衝撃を受けたそうです。そして、金づちの種類や打ち方でいろいろな金属の表情が出てくることや、太陽や米ぬかなど自然の物を利用して着色することに魅力を感じた長谷川さんは、「もっとこの鍛金を勉強したい」と美術大学に進学。本格的に技術を学び、作品作りに没頭する中、3年生の時に教授から「君は芸術家に向いている」と助言を受け、金属造形作家として歩んでいくことを決心したのです。

その年の第44回神奈川県美術展の工芸部門で美術奨学会賞を受賞し、その才能が開花。その後、自然をテーマにした作品を次々に出展し、埼玉県美術展で原知事賞、県議長賞、そして今回の県教育委員会賞と3年連続で賞を獲得しました。今回受賞した作品「夕陽山岳」は丸臺山古墳から眺めた景色を表現したもの。遠く広がる山々に夕陽が沈んでいく光景に感動し、あらためて地元行田の素晴らしさを認識したそうです。

「最近では金属の方から曲げてほしい方向を教えてくださいます」と素材と対話しながら作品作りに励む長谷川さん。今後の目標は、新たな鍛金技術を開拓し、自分にしか表現できない作品を数多く作り、個展を開くことだそうです。今後の行田の芸術界をリードする長谷川さんの活躍から目が離せません。

私の作品

俳句

西新町 小宮 武旦
病葉を脱ぎ捨て木々も生き生きと

下忍 島崎 もと
走り梅雨上がり樞に染み二つ

荒木 島田 香子
今日明日ひとに見せたまき牡丹かな

荒木 藤田 栄之
卯の花にひとり遊びの雀かな

下中条 梶原 銃司
母徳が斜面の里の新茶かな

城南 千代田富子
利根越えて古巣へかへる親つばめ

城西 榊原しずか
紫雲英田に吾の一生巻き戻す

矢場 鈴木かつの
幾千の木漏日いただき新茶かな

谷郷 富山 由喜
太極拳手足にからむ若葉風

城南 橋本千枝子
卯の花や白くつきりと闇の中

荒木 蛭間しげ子

人の瞳と医者のかけもち風光る

城西 八木橋近蔵

火祭の古代の口マン呼びおこし

持田 田子 敏枝

カーネーション活けし花瓶に母思つ

向町 渡月 峯

知りそめし螢火恋し古代蓮

城西 西田吉之助

樋の塵掃除済ませて梅雨を待つ

(木島 斗川 監修)



『愛犬ココ』(水彩画)
武井 孝夫 (持田)

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へご応募ください。